

埼玉県機械工学系奨学生レポート 平成 25 年度 10 月 インターナショナルフードフェスティバル

早くもフィンドレーに来て 3 か月が経過しようとしています。10 月はフィンドレー大学の授業の中間試験やその他さまざまなイベントがあり、あっという間に 1 か月が過ぎてしまいました。フィンドレーの寒さも勢いを増し、未だ秋のはずですがもはや私にとっては冬のように感じられます。今月はインターナショナル・フードフェスティバルに参加したことをご報告したいと思います。またインターンシップでは引き続き、新しい製造ラインのセットアップについてご報告します。

International Food Festival

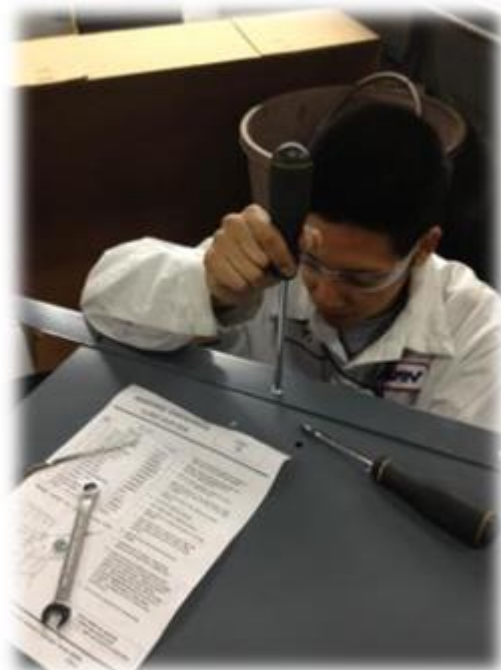
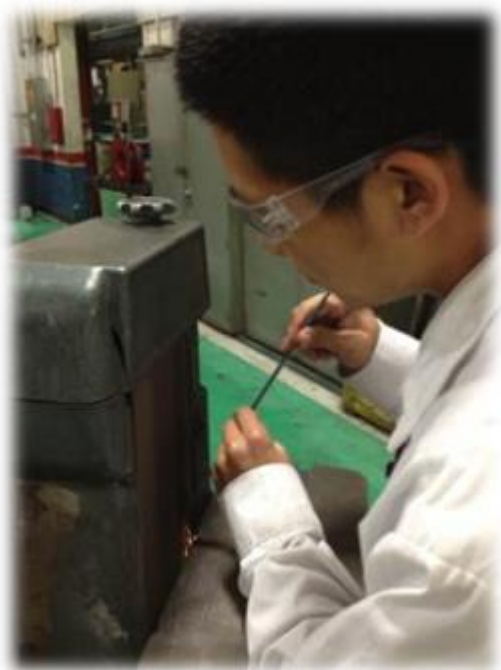
先日、フィンドレー大学で開催されたインターナショナル・フードフェスティバルに参加しました。これは、世界各国からフィンドレー大学に留学に来ている留学生が自国の料理をふるまい、交流を深めるイベントです。各 5、6 名のランダムに分けられたグループに分かれて、各国(中国、インド、サウジアラビア、日本等)の料理をグループごとに試食していきます。私がこのイベントで最も驚いたのは、多くのアメリカ人がこのイベントに参加していたことです。普段、フィンドレー大学で日本語を専攻しているアメリカ人とは交流する機会も多いのですが、私は IELP(Intensive English Language Program)コースに所属していることもあり、言語に関係のない分野を専攻しているアメリカ人(経済や政治などを専攻しているアメリカ人の学部生、大学院生)と関わる機会が多くはありません。しかしながら、このイベントに多数のそのようなアメリカ人が参加していたこともあり、アメリカ人の友達をさらに増やすことができました。また、各国の料理は、各国の留学生が気合いを入れて作っていて、とてもおいしいものでした。日本にいても、中華料理やインド料理店などは、時々行く機会もありましたがサウジアラビアの料理を食べる機会一切ありませんでした。日本にいてもなかなか関わることのない国の人々と関わり、アメリカだけでなく他国の文化をも知ることができるのがこの留学での大きな経験の 1 つだと思います。



インターナショナル・フードフェスティバルのグループ試食風景

インターンシップ(Nissin Brake Ohio)

今月のインターンシップでは、引き続き、第二工場の新しい製造ラインのセットアップを続けています。製造ラインのセットアップでは、マシンのセットアップへのイメージが強いかもしれませんが、その他にも、寸法検査ができるエリアの確保や、その検査で使うツールの発注、ツールボックスやテーブルの発注やセットアップ、その他設備の準備も行っています。例としては、先日は作業台の組立を行いました。この作業台は製造ラインで働く従業員が寸法検査した結果やマシンの不具合などを報告する必要書類を書くために使用するものです。この作業台を組み立てている中にも学ぶことはたくさんあります。例えば、新品の組立式作業台でも、アメリカ製の作業台の寸法は日本製に比べて精度が低いため、加工をしなければ組み合わさらなかった点です。日本で同じことがあれば、即返品、交換でしょう。しかし、アメリカでの返品、交換は日本に比べて対応が遅いことがあること、製造ラインですぐに必要なものであること、自分たちで解決できる点は解決することなどさまざまな理由から躊躇なく加工して組み立てました。これらのことから私は、状況に応じて限られた時間内で確実に仕事をこなすことを学習しています。



作業台部品加工風景(左)と組立風景(右)